

山下りんとその時代展

日本～ロシア/明治を生きた女性イコン画家



山下りん 《聖母子とヨハネ》 油彩・厚紙 小田秀夫氏蔵

平成11年5月18日(火)～6月27日(日) **千葉市美術館** 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
問い合わせ＝NTTハローダイヤル043-227-8600
開館時間＝午前10時～午後6時(入場は5時30分まで) 主催＝千葉市美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 協賛＝花王株式会社
ただし毎週金曜日は午後8時まで(入場は7時30分まで) 入場料＝一般800(640)円/大学・高校生560(450)円/中・小学生240(200)円
休館日＝毎週月曜日 ()内は前売・団体30名以上の料金



山下りん《ハリストス復活》1981(明治24) 油彩・布 エルミターージュ美術館蔵
© The State Hermitage Museum, St. Petersburg, 1998

祈りのために描かれる像、アイコン。明治のはじめ、このアイコン画家になるために、単身ロシアに留学した女性画家がいました。工部美術学校初めての女子学生の一人であり、また我が国最初のアイコン画家として知られる山下りんです。

現在の茨城県笠間市で生まれた山下りん(安政4/1857-昭和14/1939)は16歳で上京、浮世絵や洋画を学んだ後、東方正教に入信し、工部美術学校を中退して、単身ペテルブルグに渡りアイコン制作を学びました。ほぼ2年の修行の後帰国、神田駿河台の女子神学校2階にアトリエを構え、全国各地に竣工されたハリストス教会のため、アイコン制作を続けています。

この展覧会では、日本初のアイコン画家、明治の女性洋画家という二つの側面に注目、アイコンやその下絵のみならず、浮世絵習練の時代から美校時代のデッサン、またアイコンとは直接関係のない油彩画や版画下絵など、明治に生きた女性画家としてのまなざしを感じさせる作品も加え、その全画業を紹介します。さらに、フォンタネージら師匠や、岡村政子ら美校の同窓生をはじめとした明治前期の女流画家、そして山下が学んだ19世紀ロシア・アイコンにも焦点を当て、その時代との関連、意義を紹介します。



山下りん《田園風景》鉛筆・水彩・紙 小田秀夫氏蔵



山下りん写真(山下りん旧蔵) 1883.7月 小田秀夫氏蔵

山下りんとその時代展

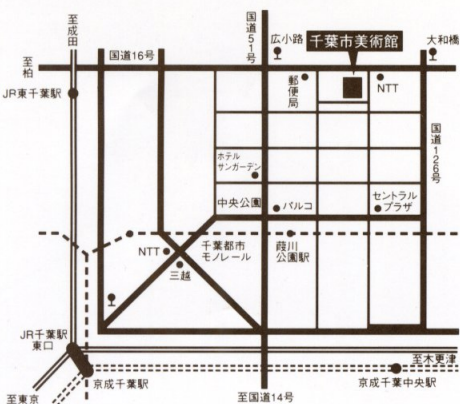


山下りん《手招の少女》鉛筆・紙 小田秀夫氏蔵



山下りん《正教新報紙絵》1882(明治15) 鉛筆・紙 小田秀夫氏蔵

- 【交通案内】
- JR総武線千葉駅
 - 東口より徒歩約15分
 - 京成バス大学病院行(のりば①「大和橋」下車徒歩2分)
 - 京成バス矢作台市営住宅・川戸行(のりば②)
 - あるいは小湊バス八幡宿駅行(のりば③「広小路」下車徒歩1分)
 - 千葉都市モノレール県庁前行(「霞川公園」下車徒歩5分)
 - 無料巡回シャトルバス「チャーバス」(のりば④「中央区役所・美術館前」下車)(11:05~18:35の毎時5分と35分に出発・水曜運休)
 - 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分



【講演会】

「山下りんの生涯と作品を語る」

6月13日(日) 午後2時から 於11F講堂^{【無料】}

講師：鐸木道剛(岡山大学助教授)

小田秀夫(山下りん研究家)

*6月1日(火) 10時より電話で予約受付(043-221-2311)

受付順180名様まで

【同時開催】

千葉市美術館所蔵作品展

「絵と文字」

5月15日(土)~6月20日(日)

*「山下りんとその時代」入場の方は無料

次回予告

甲斐庄楠音と大正期の画家たち

6月29日(火)~8月1日(日)

【さや堂コンサート】

「聖歌—祈りの声—」ア・カペラ四重唱

6月26日(土) 午後2時から 於1Fさや堂ホール

出演=アリアス

演目=シュベードフ作曲「天より主を讃めたえよ」ほか

*6月1日(火)10時より電話で予約受付(043-221-2311)

受付順150名様まで

本展覧会の入場券購入が条件となります(招待券不可)。

【千葉市美術館友の会のご案内】

入会金1,000円、年会費3,000円(一般会員)で1年間何度でも入館、図録の割引購入などの特典がございます。詳細は当館へお問い合わせ下さい。